

事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

| | |
|-------------|--|
| 課題名 | ナノ構造制御による高機能ナノ磁性材料の創製 |
| 研究責任者の所属・氏名 | フェロー 宝野 和博 |
| 【項目】 | 評価結果 |
| コメント及びアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究に筋が通っている。 ・ 研究がどの方向へ向かおうとしているのかがはっきりした計画でありかつ将来像である。幾つかの優れた斬新なアイデアとともに、重大なリスクもある。これは基礎研究としては適切なバランスである。 ・ NIMSの特長をいかに発揮する典型的な良い研究である。また産業界との共同研究に対する哲学も良好である。 ・ 研究材料は比較的よく知られている。研究責任者は、商業ベースの磁気貯蔵システムの開発や製造は独立行政法人として現実的ではなく、プロジェクトは“基礎材料科学”に集中すべきであると述べたが、この考えに賛成である。しかし、応用面へ展開するには、もっと企業との交流が必要である。 ・ 研究が非常に活発な分野である。競争がかなり激しいので、このプロジェクトが他の研究に対してどの位置にあるか明確に示すことが有効である。この研究が本当に世界的であるならば、現在の開発段階で産業界との共同研究が可能であり、そのような共同研究は研究目標をさらに絞るであろう。 ・ 本研究分野には、やらなくてはいけない研究が沢山あるが、非常に多くの研究が既になされてきた。国際共同研究が問題点を解決するキーである。 ・ 個々の研究結果は優れているが、どのように応用され役立つのか明確にして行く必要がある。 |
| 評価点 | A, S-, S, S-, A, A, S, A+, S, A |
| 総合評価点※ | A+ |

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点（小数点第二位以下四捨五入）をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, （以下同じ考え方）・・・とする。